

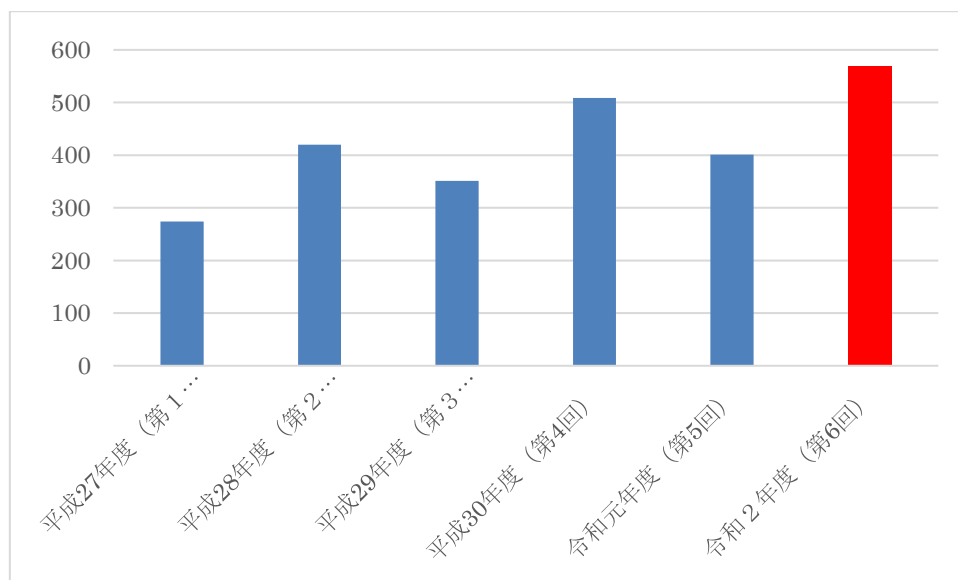


250字のつばやき大募集!

第6回
「仕事のルビー 働くサファイア」
～働く私を動かした言葉や出来事～
入選作品発表

当 NPO では、「仕事とキャリアのアーカイブ構築事業」として、職業キャリアに関する 250 字の投稿企画である第 6 回「仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～」を募集し、過去最多の応募作品 568 点の中から入選作品 5 点を決定しましたので発表いたします。

《努力に勝るもの》が キラリしごと大賞 に!



【募集概要と応募結果】

■企画趣旨 わが国では、現在、約 6,649 万人の人々が働いておりますが、働く人一人ひとりの職業キャリアには、必ずキラリと光る言葉や出来事があったはずです。それを 250 字の投稿によって、働くことの意義や仕事のやり甲斐を共有し、「仕事とキャリアのアーカイブ」として集積し保存していくことを目的としています。2016 年以降 5 回実施し、いずれの年も専門誌や WEB サイトに掲載されるなど反響を頂いており、この度第 6 回の募集をいたしました。

なお、第 3 回からは「障がいのある人としごと～懸命に働く ともに働く～」をテーマとする「ガーネット賞」を株式会社イフの協賛のもとスタートしております。

■**募集内容** 働く私を動かした言葉や出来事に関する 250 字のつぶやき
テーマ例：「仕事で励まされた一言」、「仕事で転機になったこと」等

■**表彰** 「キラリしごと大賞」(1名)：賞状と副賞(3万円図書券)、「サファイア賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券)、「ルビー賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券)、「ガーネット賞」(2名)：賞状と副賞(1万円図書券+イフ賞1万円クオカード)

■**応募数**：568件(男女254：314) 第1回は274件、第2回は420件、第3回は、351件、第4回は、509件、第5回は、401件。

■**応募年齢**：10代から80歳以上まで。職業も建具業、保育士、看護師、教員、医師、公務員、塾講師、番組制作、会社員、退職後主婦、定年後の方、パートアルバイト等様々。

■**選考** 2021年2月26日(金)に応募を締め切、4月15日(水)に認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク選考委員会による選考を行いました。

■**選考委員**：委員長／諏訪康雄理事長
副委員長／菊池桃子理事(女優・戸板女子短期大学客員教授)
委員／当NPO専務理事、事務局長、担当部長、(株)イフ 川崎芳清社長

■**主催** 認定NPO法人 キャリア権推進ネットワーク

2021年6月21日
認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク
〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目2番14号 新槇町ビル別館第一
理事長 諏訪康雄
お問合せ先 広報部長 川野晋太郎 (090-6954-1270)
Email : info@career-ken.org
URL : <http://www.career-ken.org/>

【認定 NPO 法人 キャリア権推進ネットワークについて】

当 NPO は、働く人々が希望する仕事を自ら選択し、仕事を通じて幸福を追求する権利である「キャリア権」の理念を広く社会に普及、浸透させることを目指して平成 25 年 4 月に発足し、そのための諸活動に取り組んでいます。

グローバル化、知識化する現代社会においては、働くために求められる新たな知識、技術、技能を習得する必要性が一層高まっており、また、人口、労働力の減少、高齢化が加速するなかで社会の活力や産業企業の競争力を維持、向上していくためには、働くことを希望するすべての人々が意欲に溢れて働くことができ社会を支える側に立ってもらえるようにすることが何よりも重要です。

性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず誰もが十分な職業能力を身につけることができ、その能力が高く評価される社会、会社が変わってもそれまでの経験や知識、技術、技能が正当に評価される社会、職業生活の全期間を通じて一人ひとりのキャリアが断絶することなく可能な限り継続できる社会の実現を当 NPO は目指します。

このため、企業には人事に当たり社員のキャリアの形成、展開に配慮されること、行政には雇用、教育等の政策の立案、推進においてキャリア権の尊重、保障を考慮すること、司法には労働関係の裁判、審判においてキャリア権の理念が浸透することを目指して、働く人々、企業、労働組合、学校、行政、志を同じくする NPO 等と幅広く連携し効果的な活動をしています。



第6回 仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～ 入選作品

■キラリしごと大賞

ペンネーム オノカオル 様 関東在住 30歳代

「努力に勝るもの」

才能がなければ努力するしかない。そう自分に言い聞かせてやってきた。それでも勝てない相手がいた。

報われない努力は努力とは呼べない。そんな言葉も見つけた。だからもっともっと努力した。それでもその相手には叶わなかった。

あいつと自分と、何がそんなに違うんだろう。答えはもうすぐ定年を迎える上司から貰った。『顔だよ、顔。』とその上司は言った。

『お前はしかめ面、あいつは笑顔。努力は夢中に勝てないってことだ。』

その言葉で、自分は仕事を変えた。人生が変わったのはそれからだ。

<ご本人コメント>

文化祭の準備をしていると、もう夜中なのにまったく眠くなかったことを思い出しました。

サッカーに明け暮れていた頃は、暗くなったのに気づかないくらいに没頭していたこともありました。1歳になった息子は毎日一心不乱に遊び、昨日できなかったことが今日できるようになっています。

“仕事はそんな綺麗事では済まされない”と十二分に理解した上で、それでも。

一日の半分以上をそれに費やすのだから、最後はしっかり笑っていたい。

そんな想いが今回の文章を書かせてくれたように思います。

ありがとうございました。今日も頑張って働きます。



■ルビー賞

ペンネーム みとこ 様 関東在住 30歳代

「つながる、やさしさ」

コロナ禍の昨今、病棟勤務と言うだけで距離を取られる。それだけならまだしも娘の保育園からはまさかの登園拒否。何だかまるでバイキン扱い。もう何もかも嫌になった。だけどこの前娘がマスクをしていないお年寄りに自分の予備のマスクを渡すのを見た。周囲はその男性をよけていくというのに。そんな娘の行動を見て、自分のやってきたことは間違っていないと思った。ネガティブな印象ばかりが目立つナース。だけど私の仕事は目立つじゃない。役立つんだ。そんな思いを強固にした出来事だった。

<ご本人コメント>

この度は大変素晴らしい賞をありがとうございました。何よりこの賞を娘に贈りたい。そんな気持ちです。コロナ禍となって一年弱。未だにホッとできない日々を過ごしています。現場の人手不足は深刻で、自分たちもいつコロナに罹患してもおかしくないような状況です。しかしそんな中でも主人や子ども達のおかげで今も看護師として胸を張っていただける気がします。人手不足も深刻ですが、いつか「あの頃な」と笑い合える日を信じて、これからも頑張っていきたいと思えます。



■サファイア賞

NGUYEN THI LY (グエン ティ リー)様 中部在住 20 歳代

「いろんな日本語」

「あなたは外国人だから、日本人に代わって!」、お客様に言われました。私は話しているとベトナム語のなまりが出てしまいます。なんで日本人じゃないとダメなの?日本に5年も住んでるのに、認められなくて、胸が苦しかったです。その時、同僚にこう言われました。

「あなたの日本語によって、この国で頑張っている外国人がたくさんいることを伝えています」。この言葉で私が日本にいる意味、そしてしなければならないことが、わかったような気がしました。

<ご本人コメント>

「選定していただき、誠にありがとうございました。
入社一年目の時、帰りの電車中で「帰国すれば全て解決できる」と思いながら何度も静かに涙を流しました。
倒れそうだった私。「もう限界」と「もう少しだけ」の間で常に悩んでいました。
あの時、もし日本で頑張る意味が分からなければ、今の自分はどうなっていたでしょう?
支えてくれた職場の仲間感謝を込めて、日々明るく働いて成長し続けることを決めました。
皆さんの周りに外国人のお友達がいらっしゃいましたら、「日本語の壁」につぶされないように「頑張る意味を与えてあげてください。」



■ガーネット賞

ペンネーム もりりん 様 関東在住 40歳代

「つながり」

心臓に疾患があり、ヘルプマークをつけて電車通勤をしている。
ただ一日だけステッカーを忘れてしまった日がある。
案の定途中で胸が苦しくなり、助けを呼ぶにも車内は混雑。
私がつり革を強く握ったその時だった。
ランドセルの少年が「ぐあいのわるいひとがいます」と声をあげてくれた。
その後車内の方の厚意により、事なきを得たが、私は感謝でいっぱいになった。
人がつながり、やさしさがつながる。
ステッカーでなく、人の顔をしっかり見てくれる人がいる。
そんな日本なら、この先も、きっと、働きやすいと確信した。

<ご本人コメント>

受賞のご連絡を頂いたときは喜びと同時に、感謝、でした。私のように見えない疾患のある者は、秘かに誰かの手助けを必要としています。今もこうして働きに出られるのは皆様の気づかいのおかげです。最近はどこへ行っても「何かできることがありますか」と声をかけてもらえることが増えました。スーパーやエレベーターでもそうです。荷物を持って下さる方や案内をして下さる方もいます。本当にありがたい限りです。そんな方々へのお礼の気持ちも込めて、ここに感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。



■ガーネット賞

ペンネーム Sei17 様 九州・沖縄在住 40 歳代

「手話教えてください。」

ろう者であり、教員をしています。

かつての勤務校、ろう学校とは違い、「声」だけであふれる中学校。

コロナ禍でのマスク、いつ話しているかわからない。でも、一人ひとりの顔や目、表情を見てできることをしていこうと心に決めた。

ある日、「手話」のことを話せる日がやってきた。それは、道徳の授業。

その後、生徒達から「手話教えてください。」と教室にやってきた。

また、朝も手話で挨拶。休み時間、放課後も手話で話したくてやってくる生徒。

いつのまにか、手話の魅力が伝わっていく。

生徒達の勇気と優しさに感動して、明日も頑張れる。

<ご本人コメント>

今回の応募は初めてです。素晴らしい「ガーネット賞」を受賞できたこと、大変驚いています。職場では、大規模校でもあり試行錯誤しながら働いており、私なりにコロナ禍の中、思いを文章にしてみました。ガーネットの意味は、「生命力・情熱・実り」。まさに、手話でコミュニケーションを楽しむ生徒の情熱を感じて、感動し胸が熱くなったこともあります。実らせていくものを大事に希望をもって前に進みたいと思います。受賞が公表される日、生徒にサプライズプレゼントと感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。